

HCU (High Care Unit: 高度治療室)

呼吸器外科 部長 兼 ICU・HCU 室長 魚本 昌志

2017年6月1日にHCUが開設されました。手術室、心臓カテーテル検査室およびICU(集中治療室)と同じフロアである北病棟3階西端に位置し、床面積150㎡、病床数8床(うち個室2床:感染症対応)、ICUとほぼ同等のハードウェア、16名の看護師が三交代で勤務しています。

主な入室対象患者は、一般病棟で管理できない/すべきでない重症患者で、具体的には術後早期、救急搬入、人工



HCU スタッフ

呼吸器管理状態およびICUからの転入等です。また、侵襲的な検査・処置後も病態により対象となります。

従前は、ICUが慢性的な満室状態のため重症患者でありながら一般病棟で看ざるをえないケースが多々ありましたが、HCU開設により、ほぼ全ての重症患者を集約的に管理できるようになりました。それに伴い院内全体の医療安全度の向上、一般病棟におけるメディカルスタッフの負担軽減、診療の質の向上、対診機会の増加等が実現されました。

多数の重症患者を適時・的確に入退床させるため、HCUとICUは密に連携を図り、ICU6床とHCU8床、合わせて14床を有機的に活用し、効率良くベッドコントロールを行っています。手術室、ICUおよびHCU間でモニター系のハードウェアを統一化し、移動に際して一瞬の間隙もなく連続したモニター監視が可能です。



また、ICUおよびHCU入室患者の検体検査、画像検査は最優先に施行され、朝一番の検査に関しては、日勤の始業時間である午前8時30分までに全ての結果が判明しており、重症患者の病態把握が日常診療開始前に可能なように制度化しています。これらは検査部門、放射線部門等のメディカルスタッフの献身的な努力によって実現されています。

医療は日進月歩で高度化、専門化しており、それらに応えるべくHCUが開設されました。今後も業務内容のアップデート、種々の状況の変化に対するフレキシブルな対応等、皆様のご期待に沿えるようスタッフは日々精進してまいります。

初期臨床研修のiPad活用

1. 導入の経緯

当院の研修医は様々な診療科をローテーションしながら、8日に1度の救急当直にも出動しています。この初期研修の利便性に処するため一人1台ずつiPadを導入して5年以上が経ちました。

導入当初は、初期研修制度開始時の研修サーバーを利用し「今日の診療」閲覧と研修手帳の記入・管理を各部署から行える、というものでした。

2. iPadの更なる活用

平成28年度からは、実際に利用されている研修医の意見を聞きながら、より実用的なアプリやiPadの機種を選定し直しました。

医療系電子書籍アプリは「M2Plus」と「医書jp」の2つになります。開始時は「朝倉内科学」「イラストレイテッド外科手術」「今日の治療

薬」など5冊を購入しました。また3ヶ月ほど利用した後で、個人別の要望に応じて「マイナーエマージェンシー」「サンフォード感染症治療ガイド」など数冊を追加購入しています。

論文検索アプリ「Qross」は、キーワードに応じて複数の論文データベースを横断検索できます。書誌情報に加えて論文単位のソーシャルスコアが分かる点が非常に有効でした。

iPad本体は持ち運びしやすい「iPad mini」に変更し、院外研修でも利用できるよう携帯電話回線に接続できる機種を採用しました。携帯電話回線は接続状況や通信速度も問題なく、快適に利用できています。

3. 今後の展望など

研修医同士のコミュニケーションツール、また指導医への相談ツールとしての活用を今後は検討する予定です。引き続き利用者の声を聞きながら研修の充実に向けてまいります。(研修管理委員会)



【利用した研修医の声】

- ★ 解剖の本を見る機会が多く、紙の書籍は重いので助かった
- ★ 論文や書籍の「串刺し検索機能」が非常に便利だった
- ★ 救急当番日など時間が無い時でも、すぐに使えて役立った
- ★ ちょっとしたプレゼンにも使いやすいので手放せない
- ★ 医療サイトの閲覧、特にCT等の画像が見やすかった
- ★ 急患の対応で対処薬を処方するときに活用できた
- ☆ 手帳型カバーが厚いため白衣のポケットに入れ難い(特に女性用白衣)

